



57

この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本

2021年6月6日号

編集／毎日新聞社カスタマーリレーション本部

池上彰の

「パンデミックの歴史」から学べること

13日(日)=1面など



聞いていいですか？

ジャーナリストの池上彰さんが、歴史学者で国際日本文化研究センター教授の磯田道史さん=写真

＝と対談しました。磯田さんが調べた疫病のパンデミック（世界的大流行）の歴史から、新型コロナウイルス禍で私たちが学ぶべきことを探ります。また、人間の歴史

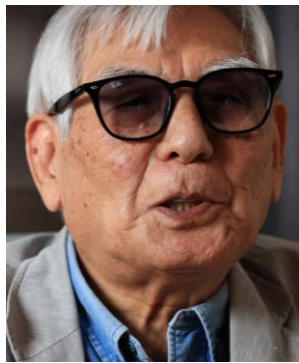
は、災いや疫病の間である「災間」を生きていると指摘。自身の役割については「『歴史の救急車』みたいな存在」と例えます。その意味とは――。



特集 **ワイド**

スポーツジャーナリスト・谷口源太郎さんに聞く東京五輪

9日(水)=夕刊特集ワイド



新型コロナウイルスの終息が見えない中、東京オリンピックの開幕が近づいています。「誰のための、何の五輪なのか」をテーマに取材を続けてきたスポーツジャーナリスト・谷口源太郎さん(83) =写真=は、

「東京」を含めた近年の五輪について「オリンピックの理念を喪失し、形骸化している」と強く批判しています。開催を疑問視する声が上がっていることなどについて、谷口さんにインタビューしました。



そこが聞きたい 「質問食べる『やぎさん答弁』」

論点

少年法改正と実名報道

9日(水)=オピニオン面

事件を起こした18、19歳を「特定少年」と位置づけて厳罰化する改正少年法が成立し、刑事裁判を受けさせる必要があるとして起訴された18、19歳の実名報道が解禁されます。

少年事件の被害者遺族、立ち直りを支える立場、メディア法の専門家の3人から、その是非や、メディアに何が問われるのかを聞きました。

新型コロナウイルスの感染爆発でも、東京オリンピックを開催しますか？こう国会で問われた菅義偉首相は、正面からは答えず「国民の命と健康を守っていただく」と繰り返しました。

8日(火) || オピニオン面

ツイッター上で「やぎさん答弁」と呼ばれるようになった受け答えが示す菅首相の政治姿勢について、ごまかし答弁を指す新語「ご飯論法」を広めた上西充子・法政大教授 || 写真 || に聞きました。

毎日新聞



締め切りは同日正午。二次元コードからぜひご参加ください。(千代崎聖史)



8日午後7時から、星野リゾート代表の星野佳路さん、地域エコノミストの藻谷浩介さんを迎え、「アフターコロナを見据える」地方復活のシナリオ」と題したオンラインイベントを開催します。

コロナ後の「地方」がどうなるのかは、日本再生への大事なカギでもあります。

